

問 耐用年数の過ぎた町営住宅の再利用は

町長 要綱など整備して検討も

問現在の町営住宅入居状況と今後の改修計画は。

町長現在、町営住宅240戸のうち192戸が入居され、5戸が入居集中である。それ以外の43戸は幸栄団地と日出団地で将来の改修や解体のために空いている。

問町営住宅は建て替えや改修をしなければ何年で国の縛りが解けて

町が用途変更して自由に使えるようになるのか。

町長最近建てた末広団地や穂波団地の2階建てのようなところは70年だが、それ以外のブロック造りなどの長屋住宅は30年が耐用年数で用途替えができる。

問耐用年数を超えている住宅は何戸あるのか。
町長平成初期に建設されたものは30年が経つ

ているので全体の半分120戸ぐらいである。
問安い家賃で入居できる所得制限などの規制のない住宅が必要だ。

町長耐用年数が経ってこれから改修しようとしている住宅を町の予算で改修して、公営住宅ではなく町営住宅として利用する考えは。

町長そういうことも検討の一つかと思う。

民間賃貸住宅の建設以外にもそうした方策があるというところで、要綱などの整備をすることは可能だと思われるので検討していきたい。



よこ 龍二 議員

今回の定例会
新町長の意欲を感じ
よかったです

問

メロン栽培、地域おこし協力隊では

町長

新たな農業形態も視野に入れて

問「まちづくり株式会社」における園芸作物の位置付けは。

町長構想自体はまだ漠然としているが園芸作物については株式会社で取り上げていく。

問「まちづくり株式会社」と「道の駅」設置の考えは。

町長道の駅についてはこれまでの議会で質問がなされてきたが、決して「ハードありきではない」と考えているが、まだ言及には時期尚早と考えている。

問くんねっぷメロンの町にとっての必要性は。

町長本町の農業形態のなかで手間のかかるメロンは作物として難しいと捉えている。しかしメロンを少しでも残す取り組みは継続していく。
問振興策として「地域おこし協力隊」によるメロン栽培をするべきでは。
町長「公設民営」は難しいが「地域おこし協力隊」が系統外の農業として栽培できる新たな農業形態が必要になる。

視野に入れて検討しなければならぬ。



みんなが大好きなくんねっぷメロン

